



## 雄武町図書館

オホーツク沿岸のやや北部に位置する雄武（おうむ）町には何度か行っていますが、札幌や東京から直接行ったことがなく、必ずどこか経由して行っています。いろいろな方法がありますが、今回は札幌から枝幸まで高速バスで向かい、雄武方面へ向かう「国保病院行き」宗谷バスに乗りしました。雄武には好きな温泉宿があるのでこちらに行くのも楽しみ。

「終わりになき図書館ジャーニーvol.31」にて枝幸町を書きました。枝幸への向かい方はこちらをご覧ください。

枝幸から雄武へのバスは1日2本。高速バスで枝幸に到着した時間には既に最終が出発した後なのでどうしても枝幸に1泊しないと行けません。その1日2本というのが厄介で現在7:10と16:10発だけ。70分ほどで雄武に到着するので、7:10に乗ると8時半前には着いてしまう。開館までどこで待てば良いか?となります。それに朝は苦手なので、いつも16:10に乗りします。それまで枝幸を満喫するようにしています。

雄武町図書館へ行くには「雄武」より1つ手前の「新町」というバス停で下車すると図書館のすぐ近くに停車します。

更に図書館から興部（おこっぺ）や紋別（もんべつ）方面に向かうなら、「新町」のすぐ近くにある「雄武高校入口」というバス停から乗るとスムーズ。このような知恵はあちこちバスで訪れる際に身につけていきます。

雄武町図書館は冬場土足厳禁でスリッパに履き替えないとはいけません。夏場は土足でも大丈夫です。雪国「あるある」なのですが、冬場は雪のついた長靴で入館すると床が濡れて滑りやすくなったりして危ないのです。スタッフが常にモップを持って館内巡回していないといけません。

人口4000人ほど。現在の図書館は2019年8月「雄図（ゆ〜と）ぴあ」として開館しました。1973年建設し改築を重ねた図書館は、老朽化だけでなく4万冊近くの蔵書スペースの限界、駐車台数がわずかであること、郷土資料館のない雄武町はその展示資料が倉庫に眠ったような状態になっていることなどの課題を解消する必要がありました。それを全て解決させたのが新図書館です。

郷土資料の展示物を館内に書籍と一緒に展示することで、自然と郷土展示物に親しみが湧きます。つまり関係資料と展示物が近くにあると理解しやすいということです。

天井が高いので館内はとても開放的。入館してすぐ右手の書架の作りはとてもユニーク。

これは是非実際に足を運んでもらいたいです。

奥手窓際の座席からオホーツク海を眺めることができます。図書館からオホーツク海を見ることができる図書館は現在雄武だけじゃないかなと思います。ちなみに羅臼町図書館は、オホーツク海ではなく、根室海峡のすぐ近くに位置します。

カウンター前にキッチンコーナーがあり 100 円でコーヒー、緑茶、紅茶を飲むことができます。開館直後にコロナで全く使えなかった設備がようやく利用できるようになりました。簡単な料理などのワークショップとかやってほしいです。

館内至るところに地域の情報が掲示、展示されています。オホーツク沿岸でのイベントカレンダーはもちろん、重要なのはクマの出没情報！雄武町の地図に出没した場所と日時が記録されています。これは産業振興課林務係が担当して図書館が掲示しています。住宅の多い海岸沿いにも出没しているのがわかります。

昭和の時代、雄武には興部から国鉄興浜南線が来ていました。雄武駅の当時の様子を知る写真や資料、旧国鉄による雄武駅で使われた道具などが「雄図びあ」に展示されています。期間限定での鉄道関連の展示は各地で見かけますが、郷土資料館がない雄武町だから常設を実現できているのかもしれませんが。鉄道と図書館の好きな方ならきっと感激するでしょう。

雄武町出身の洋画家小田切訓（おだぎりさとし）（1943-2021 年）のギャラリーが館内壁面にあります。現在 35 点を所蔵。定期的に入れ替えて展示しています。

2025 年 5 月訪問

加藤 重男